

(14) 規制委員会は誇りを持って安全な原子力エネルギー国民に！

東京都一般男性

リオのオリンピックでは選手の思い、コーチの思いがかみ合っただけ素晴らしい成果をあげた。また、ノーサイドになった瞬間から競い合った選手同士が健闘をたたえあう姿にも爽やかさを感じた。

国民の生活と経済を支えるため安全な原子力エネルギーを供給するという共通の目標をもつ、原子力安全を主導する規制委員会と安全な原子力エネルギーを国民に供給する事業者の間には、共通の目的をもって活動しているコーチとプレーヤーの関係と類似するものを感じた。この姿をみて、規制委員会の思いと事業者の思いが連携して、安全な原子力エネルギーを提供してもらいたいとの希望を一層強くした。

ところが、高い見識をもった人格高潔な権威者であったはずの元規制委員が、こともあろうに、原子力エネルギーの利用を否定する反原発グループが提訴した原発運転差止め訴訟に賛同する意見書を裁判所に提出した。この発電所は、ご自分が委員時代に関与して認可されたものである。この行動は、同氏が原子力エネルギーを安全な形で国民に提供するという目的を共有していたとは想像すらできない行為である。ちょっと頭のよい物知り学者が新しい知識をひけらかす姿は、子供じみて滑稽にさえ見える。規制委員には退任後も志を忘れずに、高い見識を原子力エネルギーの安全に活用してもらいたいと、改めて強く期待したい。原子力エネルギーを供給する側、差止ようとしている側の“ところ構わず”に不安全を指摘するのは、とても志のある高潔な人格者のすることではない。

さて、福島事故から5年有余が経過したが、社会の脱原発風潮の広がりは一歩に終息の様子が見えない。稼働の遅れにより輸入化石燃料への依存が継続、上昇した電気料金が事故以前に戻る気配は感じられない。電気料金の上昇は家計にとって容認しがたいものがあるが、産業界の競争力低下は勤務先事業への悪影響が懸念され、更に深刻である。職場が維持できなければ、家庭崩壊にもつながりかねないからである。

温室効果ガスの排出量上昇も、地球温暖化が懸念され無視できない。海外との約束は守れるのだろうか。

深刻さが増すエネルギー資源の確保や地球温暖化を考えると、日本はもとより世界全体にとって、原子力は将来を託す主要なエネルギーとしての役割を担っている。多くの国が原子力への期待を高めており、安全技術に対する我が国への期待も大きい。

原子力の安全確保を主導するのは規制委員会である。主導にあたっては、規制委員会は原子力エネルギーが現世代および次世代のエネルギーを支えることを究極の目的としていることを忘れないでほしい。

安全規制と推進は両輪である。片方の駆動力がなくなれば、もはや全体が駆動しなくなる。それぞれが、我が国、エネルギー100年の計を支える役割を誇りとして活躍することを期待する。

平成28年8月23日